

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	18	実施計画番号	14	
事務事業名	とわだエコ・オフィスプランの取組		事業開始年度	平成13年
担当課名	まちづくり支援課		事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等			関連事務事業	
背景や経緯等	職員一人ひとりが省エネルギー対策、省資源対策、ごみの分別・減量に努め、温室効果ガスの排出の削減に努める。			
事務事業の目的	地球温暖化防止など環境に配慮した行動に率先して取り組み、二酸化炭素等の温室効果ガスの排出を削減することを目的とする。			
実施状況	温室効果ガス排出量の削減			

【人件費の推移】

		24年度実績	25年度実績	26年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	40	40	40
	人件費(千円)	1,440	1,440	1,440
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

		24年度実績	25年度実績	26年度計画
事業費合計(千円)		0	0	0
うち一般財源				
うち国県支出金				
うち地方債				
うちその他				

【指標】

活動指標	活動指標名①	温室効果ガス排出量				
	計算式等	単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画	
	温室効果ガス排出量	kg	12,671,599	(現在データ集計中)	15,248,229	
	活動指標名②					
	計算式等	単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画	
成果指標	成果指標名①	温室効果ガス排出量				
	計算式等	単位	24年度	25年度	26年度	
	温室効果ガス排出量(目標値はH21年度実績)	kg	目標値	15,248,229	15,248,229	15,248,229
			実績値	12,671,599	(現在データ集計中)	
			達成度(%)	120%		
	成果指標名②					
	計算式等	単位	24年度	25年度	26年度	
		目標値				
		実績値				
		達成度(%)				

分子と分母を入れ替えました

十和田市事務事業評価シート

整理No	18
計画No	14

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">職員一人ひとりが省エネルギー対策、省資源対策、ごみの分別・減量に努め、温室効果ガスの排出の削減に努める。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	職員一人ひとりが省エネルギー対策、省資源対策、ごみの分別・減量に努め、温室効果ガスの排出の削減に努める。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
職員一人ひとりが省エネルギー対策、省資源対策、ごみの分別・減量に努め、温室効果ガスの排出の削減に努める。										
② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2							
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">職員一人ひとりが省エネルギー対策、省資源対策、ごみの分別・減量に努めることにより、温室効果ガスの排出削減に効果がある。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	0 / 6	職員一人ひとりが省エネルギー対策、省資源対策、ごみの分別・減量に努めることにより、温室効果ガスの排出削減に効果がある。	
	成果向上の余地	0 / 6								
	職員一人ひとりが省エネルギー対策、省資源対策、ごみの分別・減量に努めることにより、温室効果ガスの排出削減に効果がある。									
④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2							
⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">職員一人ひとりが省エネルギー対策等に取り組むことにより、温室効果ガスの排出の削減に努める事業であるため、コスト削減になじまない。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	0 / 6	職員一人ひとりが省エネルギー対策等に取り組むことにより、温室効果ガスの排出の削減に努める事業であるため、コスト削減になじまない。	
	コスト削減の余地	0 / 6								
	職員一人ひとりが省エネルギー対策等に取り組むことにより、温室効果ガスの排出の削減に努める事業であるため、コスト削減になじまない。									
⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">職員一人ひとりが省エネルギー対策等に取り組むことにより、温室効果ガスの排出の削減に努める事業であるため、受益者負担適正化の検討になじまない。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	職員一人ひとりが省エネルギー対策等に取り組むことにより、温室効果ガスの排出の削減に努める事業であるため、受益者負担適正化の検討になじまない。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
職員一人ひとりが省エネルギー対策等に取り組むことにより、温室効果ガスの排出の削減に努める事業であるため、受益者負担適正化の検討になじまない。										
⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
現在の適性					20 / 20	改善の余地	0 / 20			

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ⇒ **現状のまま継続**

方向性の理由
平成24年度は目標値を上回る削減量であり、大きな効果を上げている。現状を維持しながらも、より一層の効果を狙い手法を検討していく。
今後の具体的な取組方策と狙う効果
市役所での成果を上げながら、一層の効果を目指し全市的展開を検討していく。